

# 1 <sup>たから</sup> 地域資源をいかした交流と賑わいの森の京都

## 【現状と課題】

### ■ 豊かな自然をいかした「森の京都」の推進

京都丹波の森林は、由良川源流部の原生的な環境に加え、よく育った人工林も擁する等、森林資源が量・質ともに豊かであることから、府内森林・林業の中心地として、その公益的機能を府民生活に対しても広く発揮していくことが大きく期待されています。

そのため、木材をはじめとする豊かな資源をいかした地域経済の活性化と山村社会の持続発展に向けた仕組づくりが求められています。持続的な森林管理が行われることが前提となり、そのためには、小規模所有森林の集約化を推進する森林施業プランナーが不足しています。

また、人材確保と同時に、地域産材の需要拡大と木材の安定的な生産から流通までのシステムづくりを進める必要があります。原木生産を担う林業事業体では、機械化や低コスト化に対応でき、現場の即戦力となる新たな人材を強く求めています。製材加工を担う工場では木製品へのニーズが低迷する中、品質の確保や新商品開発等に必要な資金と技術者の不足が顕在化してきています。

最近では、端材等の有効利用として木質バイオマス利用への展開が重要です。木質バイオマスが再生産可能な原料や燃料となるためには、成長型林業による持続的な森林管理の中で位置付けられることが課題となります。

加えて、地域が一体となって支える森林の保全や筏流し等、伝統的な京都丹波ならではの歴史・文化を次代に継承・発展させていくことがもう一つの課題となっています。



林業大学校(京丹波町)のオープンキャンパス



製材加工工場

### ■ スポーツ交流基盤の進展と豊富な地域資源の活用

収容人数25,000人規模の専用球技場である京都スタジアム(仮称)の建設は、亀岡市のまちづくりの大きな起爆剤に留まらず、府内の北部や南部等からの広域の集客施設として、また、スポーツ振興や健康づくり、地域の新たなランドマークとして大きく期待されています。さらに、丹波自然運動公園では、京都トレーニングセンター(仮称)・宿泊棟の整備等京都丹波地域における交流基盤の整備、スポーツ振興のための環境整備が進んでいます。

こうした交流基盤をスポーツ振興の観点のみではなく、豊かな自然環境や食、環境、アウトドアスポーツ等と結び、地域の活性化に活用していくことが課題です。

「森の京都」ロゴマーク



京都の歴史や文化・豊かな暮らしを支えてきた森の景観を抽象的造形で表象化。樹木や水源をたたえ多様な動植物を育む豊かな森と、四季の移ろいと共に暮らしを営む里に流れる凜とした空気感を、山を象った図形の中に印象的なシルエットで表現したもの。



集成材



ペレットストーブ  
(ペレットに製材端材等を使用)

## ■ 高速道路網の充実による交流人口の変化

高速新時代として、「京都第二外環状道路(にそと)」が開通したことで京阪神都市圏とのアクセスが飛躍的に向上し、併せて京都縦貫自動車道が全線開通することで京都丹波が高速道路を通じて全国とつながる等、人や物の流れが大きく変化してきています。しかし、一方で京都丹波が通過点となる懸念があり、これに対応することが課題となっています。

## ■ 数多く存在し、訪日外国人からも注目されている観光資源

懐かしい日本の原風景として知られる「美山かやぶきの里」は、地域が一体となって魅力を磨き、長年にわたる情報発信を通じて全国的知名度を得た「京都丹波」を代表するスポットの一つであり、京都市域との間を結ぶ嵯峨野トロッコ列車や保津川下りは、「京都丹波」を訪れる観光客にとって欠かすことのできない魅力的な観光資源です。また、湯の花温泉は歴史の深さを感じさせる質の高い温泉・宿泊機能を提供し、他の温泉施設も多様なリラクゼーション・いやしの場を提供しています。このほか、各地の社寺や地域住民が守り伝えてきた伝統芸能、さらに道の駅や自然を満喫できるアウトドアスポーツ等随所に新しい集客施設等が備わり、地域の魅力を高めています。



美山かやぶきの里

近年では、体験型観光への期待や自然、安心・安全志向等を追い風に、豊かな自然環境や田園風景、季節感あふれる多様な食材、料理等、これまで京都丹波地域が守り続けてきた地域特性そのものが、新たな魅力として観光資源になりつつあります。



トロッコ列車



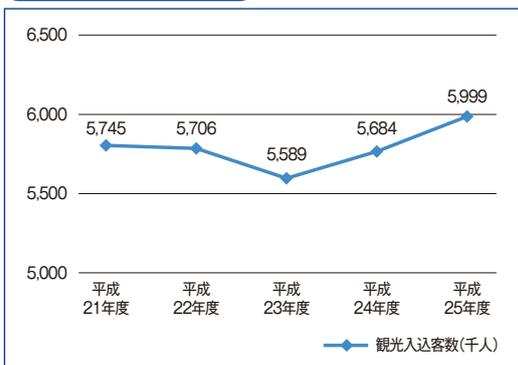
保津川下り

このため、首都圏を中心とした観光プロモーションの取組等を展開していますが、京都丹波のイメージを確立するには至っていません。小規模な観光資源・施設が各地に点在していることから、広域観光の推進を通じて、京阪神地域近郊のリラクゼーションの場として認知度を高め、国内をはじめ海外からの誘客促進等により、地域経済への波及効果を高めるさらなる事業展開が課題となります。



美山かやぶきの里を訪れる海外からの観光客

管内観光入込客数(千人)



管内観光消費額(百万円)



## 【具体的な施策の展開(1)～(4)】

### (1)豊かな自然をいかした「森の京都」の推進

豊かな森林資源を有する京都丹波地域では、府域の木材の主生産地の一つである強みを最大限活用するため、製材から集成材加工までの一連の木材加工業の振興をはじめ、製材端材等未利用資源を木質バイオマスとして原料素材やエネルギー資源として新たな産業興しにつなげるとともに、森林と一体をなす里山に育まれた「山の幸・里の幸」の有効利用を推進します。

#### ■ 豊富な森林資源をいかした成長型林業の先進地づくり

南丹局管内木材生産量の推移

- |              | 23年    | 24年    | 25年    |
|--------------|--------|--------|--------|
| 管内生産量(m)     | 78,530 | 75,674 | 79,774 |
| 府全体に占める割合(%) | 48     | 51     | 49     |
- ◇市町や森林組合等の森林プランナーと連携し、森林経営計画の作成を推進していくことで、持続可能な森林経営を広めていきます。京都丹波を一つのエリアとした地域産木材の安定供給を実現し、木材加工業等との連動を深めていくことにより、さらに成長型森林ビジネスの発達を促進します。
- ◇京都大学フィールド科学教育研究センター森林ステーション芦生研究林、京都府立大学附属演習林、府立林業大学校や京都美術工芸大学等と連携し、林業・木材産業における就労者の交流・育成を通じて、川上から川下までの幅広い知識を持った担い手確保と林業事業者の経営者育成を支援します。

#### ■ 木材や木質バイオマスの利用拡大による地域経済の活性化

- ◇新たな集成材加工施設等へ地域産木材が安定的に供給できる体制整備と地域産木材の需要拡大のため、公的施設はもとより、民間住宅等での地域産木材の利用拡大を推進します。
- ◇製材端材や未利用間伐材を木質バイオマス資源として利用拡大を図るため、チップを利用した木質系商品や新用途の開発、燃料として活用する木質ペレット等の生産や利用を拡大します。

#### ■ 地域で支える森林保全や文化の発信

- ◇大都市近郊の貴重な天然林と人手を介して守られてきた里地里山の優れた自然が残る由良川・桂川上中流域について、学術研究機関や地元自治体等と連携を図りつつ、新規国定公園の指定に向けた取組を進めるとともに、かけがえのない豊かな自然環境の保全とその価値をいかす取組をさらに推進していきます。
- ◇京都モデルフォレスト協会と連携し、「STIHLの森京都」(府民の森ひよし)等を研修の場として活用する等、森林ボランティア団体や森づくり活動に取り組む企業等の活動の自立に向けたリーダー育成等を図ります。
- ◇作業道の開設等を推進し、間伐等適切な森林管理を図ることで治山治水を維持します。併せて、木材だけでなくマツタケやハタケシメジ等特用林産物の生産振興、ジビエ等豊かな森の恵みの利用の促進を図ります。
- ◇保津川の筏流しをはじめとする京都丹波の先人が培った生活の知恵や文化、伝統技術を復活する取組等、木の文化の継承や発信を支援します。



丹波マツタケ



ハタケシメジ



保津川の筏流し

目 標 ● 地域内での製材加工される量(原木換算) 28,000m<sup>3</sup>(平成25年度 8,200m<sup>3</sup>)

## (2)「食」や「森」をいかした京・里山のおもてなし

京都丹波は、森、里、川の豊かな自然に恵まれ、古くから京の台所を支えてきた食の宝庫であります。一方で、近年では、質的にも量的にも都市部並み高等教育機関の立地、京都縦貫自動車道や各種バイパスの開通等交流基盤が飛躍的に整備されるとともに、京都スタジアム(仮称)や丹波自然運動公園の京都トレーニングセンター(仮称)等新たな社会基盤整備も整いつつあります。

さらには新たな新規国定公園指定等の強みをいかし、食による里山のおもてなしや健康づくり等を展開する「養生の里プロジェクト」を推進し、教育体験旅行をはじめとする新顧客の開拓に努め、内外からの交流促進と賑わいづくりを進めます。



京都精華大学と連携し  
「七彩スイーツ」のデザインを検討

### ■「食」をいかした里山のおもてなし

- ◇道の駅の連携・協働のもと、道の駅の特徴をいかした駅弁や特産品開発、採れたて農林水産物の直売等、道の駅を核とした観光振興・地域振興につながる京都丹波「道の駅」プロジェクトを推進します。
- ◇京都丹波スイーツ選手権の取組により、地域食材を使用した新たな地域特産品としてのスイーツの開発を行うとともに、販路拡大支援、団体活動支援を行います。
- ◇京都丹波のブランド農林水産物等と森の恵みであるジビエを組み合わせた新たなおもてなし郷土料理の開発に取り組みます。

- ◇ヤマメやホンモロコ等内水面漁業の振興とその加工品を新たな地域特産品として普及する「森と水の恵みの京都丹波プロジェクト」を推進します。
- ◇京都丹波の特産である五色の豆「小豆(赤)、黒大豆(黒)、紫ずきん(紫)、大豆(黄)、京白丹波(白)」を活用したスイーツや土産物として新たな地域特産品の開発を進めます。
- ◇ブランド農畜産物の生産拠点である利点をいかし、豊かな食材や加工品等を「うま〜い京都丹波」として取りまとめ、一元的な情報発信を通じた、京都丹波の魅力アップを図ります。

### ■「食」をいかした、農業と医療・福祉との連携による健康づくりプロジェクト

- ◇京都丹波の地元産野菜を活用した地域住民の食生活改善や、体験農園を活用した健康づくりを通じて、地域住民が食と農、健康について考えていくプラットフォームをつくり、「京都丹波スタイルの食育のまちづくり」を推進します。
- ◇多くの人が農業体験を通じた健康づくりに手軽に取り組めるよう、既存の宿泊施設や温泉、農業交流体験、耕作放棄地、転作田、小中学校の再編に伴い新たな活用が期待される校舎を活用した「京都丹波交流滞在型クラインガルテン」の整備を進めます。



ジビエ料理



こだわり! 京都丹波のごちそう  
「美山鹿あまから飯」

- ◇管内に立地する企業や大学食堂と連携し、京都丹波の地場野菜を活用した昼食の提供や適切な量と質の食事を選択して摂取できる食環境の体制整備と健康づくりを推進します。
- ◇薬膳やハーブ料理、リキュール等、農業者と商工業者、農業者と医療関係者との地域内連携を推進し、地場食品産業と結び付いた健康食の開発や普及に取り組みます。
- ◇有害鳥獣であるシカやイノシシを食材として、より一層有効利用を図るため、ヘルシーな健康食「ジビエ料理」を農工商で推進する「京都丹波ジビエ推進協議会(仮称)」を設立し、普及に取り組みます。

## ■ 京都丹波・食と森の交流協議会のビジネス展開の促進

- ◇丹波黒大豆、丹波大納言小豆、丹波くり等、京の食文化を支える高品質で豊富な農林畜水産物、里山の豊かな自然や恵み、伝統文化等の強みを最大限にいかした農業や農村生活体験に加え、アウトドアスポーツや伝統文化芸術体験、牛乳や卵、蜂蜜等の畜産物を活用したプログラムを開発するとともに、新規国定公園の指定が計画されている由良川や桂川上中流域の豊かな自然を体感する、他の地域にない本格的で独自性のある教育体験旅行を構築し、全国に向けた情報発信を行います。
- ◇教育体験旅行を安全かつ適正に受け入れるためのガイドラインを定め、地元観光事業者とともに共存共栄できる仕組を構築します。
- ◇「京都丹波・食と森の交流協議会」の法人化を支援し、継続性の高い、地域住民主体の推進体制を構築します。
- ◇ブランド京野菜の4割を生産している地域の強みをいかし、子どもから大人までが何度でも訪れたいくなるように、「食べる」、「学ぶ」、「買う」の機能を併せ持った農作物直売所（京野菜ランド）の開設支援や充実強化を図ります。
- ◇ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックや関西ワールドマスターズゲームズも視野に入れ、京都市内から1時間以内で本格的な農業農村体験ができることを売りに、小中学校の再編に伴い新たな活用が期待される校舎、空き家、農家民宿、ガイドラインに基づく農家民泊、温泉旅館等、多様なニーズに対応した滞在プランを「京都丹波交流滞在型クライנגルテン」として取りまとめ、旅行業者等へ提案します。
- ◇農産物販売と京野菜の収穫体験等セットで行う生産者と消費者との交流や、京野菜の収穫と調理・試食、サイクリングと組み合わせた農村体験等、京阪神等の都市住民や訪日外国人をターゲットにした、新たな交流商品づくりを支援し、農村ビジネスの確立を図ります。
- ◇農家民宿、農家レストラン、クライנגルテン、農産物直売所（京野菜ランド）等の開設支援や「旬の京野菜提供店」の拡大に併せて、これらが相互に連携して、子どもから大人までが楽しめ、くつろげ、癒され、さらには長期滞在の実現を後押しする農業者や商業者、観光業者等で組織する「京都丹波食・体感協議会（仮称）」を設立します。

### 教育体験旅行の受入実績の推移

年 度	団 体 数	生徒数(名)
H23	5	340
H24	9	620
H25	23	1,395
H26	28	1,996
計	65	4,351

※平成26年は1月末時点



教育体験旅行

### 目 標

- 教育体験旅行の受入団体数 40団体(平成25年度 23団体)
- 教育体験旅行の受入人数 3,000人(平成25年度 1,395人)
- 府の支援による農家民宿の開設数 30軒(平成25年度 8軒)

## (3) スタジアムや地域資源をいかしたスポーツ観光

京都スタジアム（仮称）や丹波自然運動公園の京都トレーニングセンター（仮称）、京都縦貫自動車道の全線開通等交流基盤が整う中、スポーツと京都丹波の豊かな自然や食等の地域資源を効果的に結び、日常的にスポーツに親しみ、体験できる京都丹波ならではのスポーツ観光の推進等、「京都丹波まるごとスタジアム化プロジェクト」により、交流や賑わいづくりを進めます。

## ■ 京都スタジアム(仮称)や丹波自然運動公園を活用したまちづくり

◇京都スタジアム(仮称)や丹波自然運動公園の京都トレーニングセンター(仮称)の整備、新規国定公園の指定、「STIHLの森京都」(府民の森ひよし)のリニューアル等、地域資源をいかしたスポーツ観光による交流・賑わいづくりに取り組みます。



丹波自然運動公園

## ■ 京都丹波まるごとスタジアム化によるスポーツ観光推進

- ◇京都丹波が一丸となった「京都丹波まるごとスタジアム化推進会議(仮称)」を設立し、スポーツボランティアの育成や京都丹波ならではのスポーツ観光を推進します。
- ◇スポーツ情報をはじめ地域資源・交流基盤の情報の一元化を図り、スポーツ観光ポータルサイトの運営やフェイスブックを活用した情報発信とともに、観光団体等との連携のもと、温泉、民宿とアウトドアスポーツ等との観光企画等旅行会社への旅行商品化を推進します。
- ◇キッズ体験プログラム、アウトドア体験プログラム、食とスポーツ体験旅行プログラム、農業とスポーツを融合させたアグリスポーツイベント、歴史・文化ウォーク等、地域資源を活用したスポーツ体験プログラムを企画・開発します。
- ◇京都丹波ならではの地形や様々な地域資源をいかした新たなスポーツイベントの企画提案、実施に向けた取組を支援します。
- ◇地域の豊かな自然や地形を活用したサイクリングやカヌー、ラフティング、フィッシング、トレッキング等のアウトドアスポーツによる観光振興と誘客促進を図ります。
- ◇ラグビーワールドカップ、関西ワールドマスターズゲームズ等も視野に入れ、スポーツ施設の充実や京阪神地域から好アクセスをいかし、スポーツ大会や合宿の誘致等、スポーツ観光の推進と地域交流を推進します。
- ◇地域のグラウンド、テニスコートをはじめ、小中学校の再編に伴い新たな活用が期待される校舎等や農家民宿等を活用し、近隣府県の社会人をターゲットにしたアフターファイブスポーツ合宿等を推進します。
- ◇体力や競技力向上に向け、幼稚園から大学までの連携をはじめ、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等地域の指導者と協働した人材育成を図ります。



美山でのサイクリング



保津川ラフティング

目 標 ● スポーツ観光の企画プログラムの開発数 12件(平成25年度 - )

### (4)新しい時代の観光振興

高速道路等の整備進展により京都丹波地域へのアクセスが充実する中、インターネットやフェイスブックから情報を入手し、トロッコ列車利用客や美山かやぶきの里への訪日観光客が増加する等、ヒト・モノ・カネの流れが、大きく変化しています。

こうした多様な変化に対応するため、行政、観光協会等がオール京都丹波で観光プロモーション活動していくとともに、併せて、既存の観光資源を利活用、地域に眠っている観光素材を掘り起こし、新たな観光需要の創出を図ります。

## ■ 高速道路網の充実による交流人口(客層、発地等)の変化へ対応した、オール京都丹波での観光振興の促進

- ◇丹波黒大豆、丹波大納言小豆、丹波くり等豊富な食材、芦生原生林や里山等の豊かな自然環境をいかした教育体験旅行を実施している「京都丹波・食と森の交流協議会」と連携や協働した、京都丹波ならではの観光振興を展開します。
- ◇管内の市町、商工団体及び観光団体等と共同して行う、サービスエリア、パーキングエリア、道の駅等、車での来訪者をターゲットとした多様な「京都丹波観光プロモーション」を実施します。
- ◇京都丹波観光甲子園の開催を通じて、若者目線で新たな観光資源や魅力を発掘するとともに、商品化につなげます。
- ◇京都丹波の情報発信ツール(パンフレット、画像、映像)等を使ったメディア、マスコミ等への情報発信、情報提供により地域への誘客を図ります。
- ◇入込客の客層や発地、利用アクセスの変化等に対応した、きめ細かな旅行商品づくりを支援します。



京都丹波観光甲子園

## ■ 海外からの誘客(インバウンド)促進

- ◇増加傾向にある京都丹波へのインバウンド客へのおもてなしとして、接客、表記、案内、WiFi整備等の地元受入体制を整備します。
- ◇インバウンド誘致に係る観光プロモーションや情報発信を行います。



台湾での観光プロモーション

## ■ 既存の観光資源の再活用による観光商品化

- ◇既存の観光施設、伝統芸能行事等の観光素材としての再活用、隠れた観光資源の発掘により、これらを新たな観光ルートとして開発し、商品化につなげます。また、日吉ダムや京都新光悦村等の施設を観光資源としてより積極的に活用していきます。
- ◇京都丹波の食材を使った料理メニュー等により、食の魅力を発信し、誘客の促進を図ります。
- ◇点在する観光スポットを結び、観光ルート上にある道路の未改良区間の整備を進め、円滑・快適な観光を支援します。
- ◇道の駅や道路案内標識等、道路での情報発信機能を強化し、管内市町や観光団体と連携しながら、観光客を適切・効率的に観光地等へ誘導します。
- ◇地理的・歴史的・文化的にもつながりが深い“丹波”の産業・観光振興を図るため、京都府と兵庫県にまたがる丹波地域において、「大丹波連携」の取組を市町や観光協会等と一緒に進めます。
- ◇地域の豊かな川の恵みを活用し、若年層を対象とした釣り場の紹介やあゆ釣り教室等の開催支援を通じ、地域振興につなげていきます。



るり溪の新たなイルミネーション  
「京都イルミエール」

## 目 標

- 京都丹波地域への観光入込客数 650万人(平成25年 599万人)
- 観光客の一人当たり消費額 2,700円(平成25年 1,684円)